

「湘南の七福神めぐり」解説

湘南ふじさわウオーキング協会 今井・池内・小林・弥勒寺

人間は誰でも禍福を思っ悩み、福運を求めて人生を彷徨する。それ故に神仏への信仰が生まれる。

「福運」と一言でかたづけられないのは、人はそれぞれの願望が一樣でないからだと思う。家内安全、健康長寿、商売繁盛、縁結び、学業成就、立身出世などいろいろな願望がある。七福神信仰も、こうした人の願望から発露したものだろうと思う。

『仁王護国般若波羅蜜經』(仁王經)によれば、「七難即滅、七福即生」とある。教え導くところを厚く信じて行なえば、天災や人災の七つの大難(日月の難、星宿の難、火災の難、水害の難、風害の難、旱魃の難、戦乱盗賊の難)がたちどころに消滅し、七つの福が生ずると云う。

そうした信仰が現代まで承継されて、今年こそは幸せである事を願って、正月の松の内に七福神詣でが行われて来たのである。

鎌倉時代には、日本古来の守り神である「恵比須神」(漁業、労働、商売などの守護神)の信仰に、インドから大黒天(五穀豊穡、飲食の神)、弁財天(音楽、知恵、財福の神)などの信仰が加わった。

室町時代になると、これら三神の信仰が庶民に浸透して行った。加えてインドの毘沙門天(仏法の守り神)、中国の福祿寿(幸運の神)、布袋尊(福德の神)、寿老人(長寿延命の神)の四神が加わり、人々の願望に答える七福神として信仰の対象になった。

江戸時代になると、上野寛永寺の開祖天海僧正は、徳川家康に寿命(寿老人)、有福(大黒天)、人望(恵比須神)、清廉(布袋尊)、威光(毘沙門天)、愛敬(弁財天)、大量(心が広く大きい事)(福祿寿)の七つの福德が、人生にとって大切であることを説明した。そこで家康は人心を鎮める手段として七福神信仰を広めてゆく。

八代将軍吉宗の頃(江戸中期)になると天下泰平の世となり、物見遊山のゆとりが出て来て、江戸八百八町には七福神を祀る神社仏閣が多く建てられた。江戸末期には商売繁盛、無病息災等さまざまな大願成就、福德・福運を求めて全国各地に波及して行った。特に正月松の内に巡拝して一年の福德を祈願した。

明治時代に入ると、戦争により七福神信仰も抑制され、一時衰退して行く。現代に入ると、ウオーキング感覚で七福神巡りを楽しむ人が増えて来た。各市町村も町起こしの一環として力を入れて来ている。コロナが少しずつ収束に向かいつつある今、湘南地方に点在する七福神を巡拝しながら、無病息災を祈ろう。

七福神(東洋の神々を祀る)

- * 恵比須神-----七福神の中で唯一日本人の神。漁業と商売の神様。恵比須神の正体はいくつかの説がある、一つはイザナギ尊とイザナミ尊の両親から生まれたが、日向の里から海に流され、摂津西宮に流れ着き、西宮神社でその祭神・恵比須になったと云う。他は大国主命の息子の事代主神。
- * 福祿寿-----中国出身の招徳人徳の神。背が低く、頭が長く、足が短く、白髪を蓄え、経巻を結んだ杖を携え、団扇を持って多くは鶴を伴っている
中国道教で説く万人の理想の神。「福(子孫繁栄)」「祿(財産)」「寿(健康長寿)」の三徳を備える
- * 布袋尊-----七福神のなかで、唯一実在した中国唐時代末期の禅僧で笑福来福の神。日頃手に杖を持ち、日用品と喜捨されたものを入れた大きな袋を背負って方々を放浪していた事による。ご利益は慈悲、和合、予知、金運
- * 寿老人-----中国道教の神で、寿命を司る富貴長寿の神。南極星の化身とされるが、老子が天に登って仙人になったと云う説がある。仙人は山中で不老不死の術を修めて神通力を得た者で神と同様に信仰されている。白い髭を伸ばし、経典を付けた杖を持っている。玄鹿を連れていたり、桃を持っていたりする。これらは総て中国長寿のシンボルである。ご利益は長寿延命、富貴繁栄、身体健全子宝、諸病平癒
- * 毘沙門天-----勇気と威光を司るインドの守護神。仏を守る四天王の一人で北方の守護神であり、多聞天とも呼ばれる。北方にある多くの財宝を守っていると言う事に因み、福德の神とされる。甲冑を付けた武人で、宝塔を捧げもう一方の手は戟(げき)か宝棒、宝剣を持つ。真言を唱える事で常に災厄を除き、財宝を授けられ、知恵、容貌、力、弁舌、富などを得る
- * 大黒天-----「破滅の神」として恐れられたインドの神。中国を経て日本に来てからは、人々に官位や財宝、特に「山の幸」を恵む優しい神に変わり、二俵の米俵の上に坐した像を寺の台所に安置するようになり、家を守る神として祀られた。台所を預かる寺院の奥さんを「大黒さま」、大黒天を祀る柱を「大黒柱」と呼ぶようになった。ご利益は商売繁盛。わが国で最も古い有名な大黒天は、比叡山の出世大黒と云われる。
- * 弁財天-----唯一の女神、インドの神で弁舌・音楽に優れた学芸の神。白色の美顔で頭に宝冠を戴き、一般には青色の衣を着て、左手には琵琶を抱き、右手でこれを弾いている座像が多い、また他の経典によれば八臂(はっぴ)八本の腕として、各手にはいろいろな器杖をもっているとされる。弁財天はサンスクリット語で「サラスバティー」と言い、訳して妙音天・美音天・大弁才天女、略して弁天と呼ばれる。
ヒンズー教の川の神ブラフマン(梵天)の奥さんで、絶世の美人とされ、福智・弁才・無限の大恵を与え、諸技を授けるという功德を持っている。
片瀬江ノ島の江島神社辺津宮の裸弁天は江戸時代から特に有名。日本三弁財天は江島神社、琵琶湖竹生島、宮島厳島神社

湘南の七福神めぐり

湘南ふじさわウオーキング協会は、過去パスポートシリーズとして「大山街道を歩く」、「相模國準四国八十八箇所めぐり」、「湘南の歴史街道をゆく」を催行してきたコロナも収束に向かいつつある今、湘南地方に点在する七福神の社をめぐりながら無病息災・家内安全・不老長寿・現世御利益を祈念したいと思います。

- ① 2023年 1月28日(土) 10km 相州村岡七福神(藤沢市) 川名御霊神社・宮前御霊神社・高谷大神宮・日枝神社・柄沢神社・荒神神社・弥勒寺
- ② 2023年 4月22日(土) 14km 鎌倉江の島七福神(鎌倉市・藤沢市) 浄智寺・八幡宮・宝戒寺・妙隆寺・本覚寺・長谷寺・御霊神社・江島神社
- ③ 2023年 7月 9日(日) 20km 相州小出七福神(茅ヶ崎市) 妙伝寺・法蔵寺・来迎寺・白峰寺・正覚寺・蓮妙寺・善谷寺
- ④ 2023年 10月21日(土) 23km 三浦七福神(三浦市) 圓福寺・慈雲寺・海南神社・見桃寺・白髭神社・妙音寺・延壽寺
- ⑤ 2024年 1月 藤沢七福神(藤沢市) 白旗神社・龍口寺・皇大神宮・養命寺・感応院・諏訪神社・常光寺・江島神社
- ⑥ 2024年 4月 湘南七福神(逗子市・葉山町) 玉蔵院・宗泰寺・仙光院・東昌寺・光照寺・長運寺・延命寺
- ⑦ 2024年 7月 湘南ひらつか七福神(平塚市) 要法寺・妙安寺・平塚八幡宮・蓮光寺・善性寺・三嶋神社・長楽寺
- ⑧ 2024年 10月 小田原七福神(小田原市) 潮音寺・福泉寺・鳳巢院・蓮船寺・報身寺・大蓮寺・圓福寺

* アンコールは行いません

* 地図上に各寺社の門前辺りで、七福神印の押印を行います

合掌

* 完歩賞・努力賞を差上げます

参考文献:「七福神めぐり-礼式と心得-三心堂」、「全国七福神めぐり-東京堂出版」、「図説 七福神-戎光祥出版」、「戸塚宿七福神めぐりマップ」